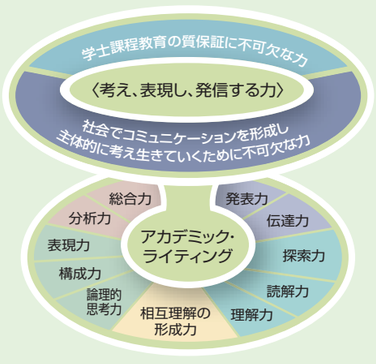
文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」に採択

〈考え、表現し、発信する力〉を培う ライティング／キャリア支援

文部科学省が重点的に財政支援を行う平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」に、関西大学と津田塾大学が申請していた連携取組「〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング／キャリア支援」が採択された。今回の事業には、全国の国公私立大学等から153件の申請があり、49件が選ばれた。期間は平成24年度から5年間。

ライティング／キャリア支援とは…

学生のキャリア形成を視野に入れたライティング支援



■ 多様なステークホルダーと密接に連携

採択された取組名称は、「〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング／キャリア支援」。学士課程教育の質的転換と有為な人材育成のために欠かせない〈考え、表現し、発信する力〉を、ライティングセンターを中核にした総合的なライティング／キャリア支援体制の構築を通して培う。

これまで学生のキャリア形成を重視したライティング支援に取り組んできた関西大学と津田塾大学、および多様なステークホルダーが密接に連携して、日本の教育環境に適した支援体制を整備し、全国に普及させることを目指している。

社会の声を代弁するステークホルダーとして、学会（The Writing Centers Association of Japan）、教育委員会（伊丹市教育委員会）、国の機関（国立女性教育会館）、企業（朝日新聞社、JTB西日本、ダイキン工業、パソナグループ）が参加し、連携してプロジェクトを展開する。

■ ライティングによってキャリア形成を支援

具体的に次のような取組内容で、学生のキャリア形成を視野に入れた総合的なライティング支援を行う。

①ライティングセンターを中心とした支援体制の再構築
- ライティングセンターの拡張と充実
- TAとピアサポートによる支援体制の整備
- 教職員FD、講演会、セミナーの実施

②ｅポートフォリオシステムの開発（TECfolio）
- すべての取組を一つに結ぶライティング／キャリア支援ｅポートフォリオシステムの開発

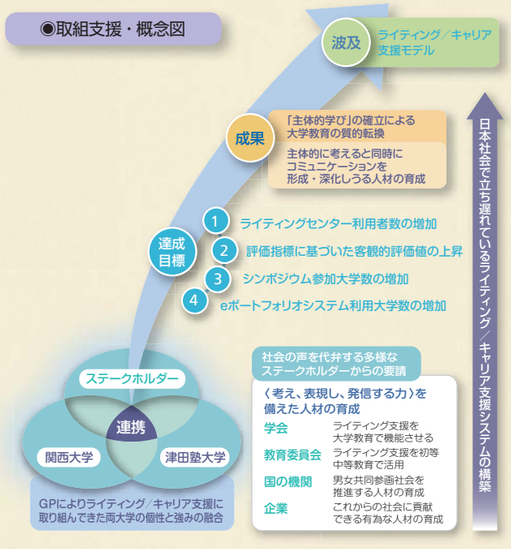
③評価指標の確立
- 客観的評価指標の確立
- 自己評価指標の確立

④カリキュラムとの連動
- ライティング／キャリア支援を意識した新タイプの授業開発

⑤社会連携
- 高大連携
- 産学官連携

以上の取組により、(1)主体的学びの確立を通して学士課程教育の質的転換を実現するとともに、(2)〈考え、表現し、発信する力〉を駆使して主体的に思考し、コミュニケーションを形成・深化しうる人材を育成する。

◉取組支援・概念図



法と政策を通じて国際社会に貢献する人材を養成

政策創造学部「国際アジア法政策学科」2013年4月開設

関西大学政策創造学部は2013年4月、「政策学科」に加え、新たに「国際アジア法政策学科」を開設する。欧米のみならずアジアの法と社会を学び、法と政策を通じて国際社会に貢献する人材を養成することを目的としている。

多様な歴史と文化をもつ世界各国・地域の法と社会を学び、社会科学（法律、政治、経済）の基礎を確実に身につけることによって、グローバル社会に通用する政策立案力を育成する。

具体的には、4つの学びのポイントが挙げられる。

① 欧米・アジアの諸言語で法と社会を学ぶ。
② 法律、政治、経済の基礎を確実に学び、実践に生かす。
③ 徹底した少人数教育・きめ細かな指導のもとで、主体的に学ぶ。
④ グローバル社会で通用する政策立案能力を養う。

新学科開設に伴い、政策創造学部の入学定員（350人）は、政策学科270人、国際アジア法政策学科80人となる。

国際アジア法政策学科の2013年度募集は、「一般入学試験」「センター利用入学試験」「外国人学部留学生入学試験」で行う。

世界初！2種のポリ乳酸積層フィルムによる圧電効果

PZT（左）と新開発の圧電材料

◉田實佳郎教授（システム理工学部）と帝人が透明圧電材料を開発

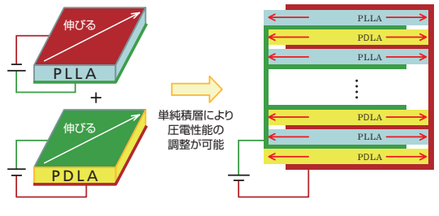
関西大学システム理工学部の田實佳郎教授と帝人株式会社の新フィルム開発推進室は、世界で初めてポリL乳酸（PLLA）とポリD乳酸（PDLA）の2種類のポリ乳酸フィルムを用いた透明圧電材料を開発した。このニュースは、8月14日に日本経済新聞で大きく取り上げられた。

この圧電材料は、簡便な積層プロセスにより製造することができ、透明かつ柔軟性があり、従来にない高い圧電効果（圧力によって生じたひずみに比例して電力が発生する現象）を有する。従来、圧電材料としては一般的にチタン酸ジルコン酸鉛（PZT）が用いられているが、鉛を含有する特定有害物質であり、柔軟性に乏しく、大型化や軽量化が難しい。

PLLAフィルムとPDLAフィルムは、同一方向の電界において正反対の動きをする物質。この特性を利用することにより、双方のフィルムの間に正極と負極を交互に挟み込むだけで、2種類のフィルムの動きを同一方向に合わせることができ、より簡便かつ実用的なプロセスで製造することが可能となる。さらに、積層数によりその圧電効果をコントロールできることから、顧客のニーズに応じて圧電効果を自由に設定することが可能である。

新開発の圧電材料は、高い圧電性能に加えて、透明性や柔軟性を有し、大型化が可能な環境配慮型素材を使用している。今後、従来のPZTでは対応が難しかった部位での、圧力・振動・衝撃などを感知するセンサー用途や、超音波モーター、医療用超音波振動子など、幅広い用途での実用化に向けた研究開発が期待される。

■ PLLAフィルムとPDLAフィルムの積層フィルム



〈特徴〉
- ▶透明で柔軟性がある
- ▶PZTを凌駕する圧電性能
- ▶積層数により圧電性能が調整可能
- ▶共押出法により製造可能
- ▶大型化が可能